



# NEWS

No. 165  
March 2016

(公社)日本工学アカデミー編集会議  
Office: 〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20  
建築会館 4F

Tel: 03-5442-0481  
Fax: 03-5442-0485  
E-mail: academy@ej.or.jp  
URL: http://www.ej.or.jp/



## ローマクラブ共同会長 名古屋大学名誉博士称号授与記念イベント 「ローマクラブ会員とノーベル賞受賞者との対話」

理事 林 良嗣 / YOSHITSUGU HAYASHI

日本工学アカデミーは、「ローマクラブ会員とノーベル賞受賞者との対話」と題して、2月6日(土)、名古屋大学ESホールを会場にトークセッションを行った。この日、名古屋大学では世界を代表する生態環境学者であるエルンスト・フォン・ワイツゼッカー教授(ローマクラブ共同会長)に対し、名古屋大学大学院環境学研究科の十年來の客員教授、グローバルCOE「地球学から基礎・臨床環境学への展開」の国際外部評価委員などとしての多大な貢献により、松尾清一名古屋大学総長から名誉博士称号が授与された。

その機会にワイツゼッカー教授の記念講演、同氏をはじめノーベル物理学賞受賞者・赤崎勇名城大学終身教授、同天野浩名古屋大学教授及びローマクラブ・フルメンバーである小宮山宏会長と林良嗣理事によるトークセッション(日本工学アカデミー中部地区講演会)を開催した。

ワイツゼッカー教授は、「ローマクラブからの新たなメッセージ」と題して、氏の編み出した概念「ファクター4(豊かさを2倍にしながら、資源消費を半減する)」やそのために必要な経



ワイツゼッカー氏と小宮山宏会長

済システムのあり方の再検討など、資源・地球環境問題へのローマクラブの対応について講演された。

トークセッションでは、飯尾歩中日新聞論説委員の司会のもと、ファクター4を実現する青色LEDの発明によりノーベル物理学賞を受賞された赤崎教授(日本工学アカデミー創設時からの会員)、天野教授(新会員)、そしてローマクラブ・フルメンバーであり未来のプラチナ社会、都市のスマートシュリンクをそれぞれ提唱する小宮山会長、林理事(コーディネーター)が加わって、地球環境問題への対応理念、技術、そしてある



司会: 渡辺芳人名古屋大学理事



松尾清一総長とワイツゼッカー氏



赤崎勇会員



天野浩会員

べき将来社会の姿について、語り合った。LEDがわずかな電力で光を与える技術であり、未だ低所得の途上国の子供達の勉学にも有効であることなど、技術の社会変革への貢献についても語られた。

講演会終了後、館内にあるレストラン「シェ・ジロー」で交流会を開催し、ワイツゼッカーご夫妻、松尾総長、小宮山会長、日本工学アカデミー会員、大学関係者らが交流を深めた。



名誉博士称号授与式の様子



トークセッション：左から飯尾歩氏、林良嗣理事、ワイツゼッカー氏、小宮山会長、赤崎会員、天野会員

特集

## 2015年秋の会員の叙勲・顕彰

### 末松安晴先生の文化勲章受章を祝って

東京工業大学名誉教授 伊賀 健一 / KENICHI IGA



本アカデミー会員で東京工業大学名誉教授の末松安晴先生が、2015年度の文化勲章を受章されました。

末松安晴先生は、レーザーが出現した1960年頃から光通信を目指した研究を開始されました。基礎的研究を経た1970年代に、光ファイバの伝送損失が最小となる波長1.5ミクロンの光を発振し、かつ高速に変調しても波長が安定した「動的単一モードレーザー(DSMレーザー)」を実現されました。システムを念頭に置いて概念を具現化するという工学的手法によるもので、この先導的研究により大容量・長距離光ファイバ通信への道が拓かれ、そこでの標準レーザーとして

広く用いられています。さらに、発振波長を電氣的に制御する波長可変半導体レーザーを開拓され、高密度波長多重通信(Dense WDM)のきっかけを作られました。これらの業績に対し、IEEEから最高位の「IEEE Education Medal」が授与され、2014年には日本国際賞を受賞されています。

末松先生は、東京工業大学及び高知工科大学の学長や、国立情報学研究所長として務められました。教育・研究界の発展に腐心され、工学教育に人間力の必要性を提唱されました。また文部科学省では、科学技術・学術審議会会長として自発研究の意義を力説され、その基礎となる大学基盤経費の重要性を主張されました。また、日本学術振興会・産学協力会理事長として、学術振興会の委員会活動をリードされました。

同じく学術振興会の卓越研究成果公開事業として、『発明と発見のデジタル博物館』をスタートさせ、今では約1,500件のデータベースができています。

→ <http://dbnst.nii.ac.jp>

今もいたってお元気で、考古学とゴルフを楽しみながら科学技術振興の活動を続けておられます。

## 文化功労者の安西祐一郎会員のご業績

慶應義塾大学理工学部教授 天野 英晴 / HIDEHARU AMANO



本アカデミー会員・安西祐一郎先生は平成27年度文化功労者に選出され、11月に顕彰されました。

先生は、1974年慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程を修了後、米国CMU(カーネギーメロン大学)で学習、思考、問題解決に関する認知科学的研究を行われ、慶應義塾大学、北海道大学で、コンピュータを用いた認知的相互作用モデルの研究を行われました。1987年、慶應義塾大学理工学部へ赴任され、1993年から8年間学部長として学科再編、大学院専攻再編、生命情報学科設置など学部・大学院の改革に尽力さ

れました。さらに2001年塾長に選任され2期8年を務め、この間、慶應義塾創立150年記念事業、薬学部創設など様々な業績を挙げました。現在も独立行政法人日本学術振興会理事長として、学術・科学技術行政、教育政策などを通して、日本の科学技術と教育の発展を先導しておいでです。

先生は、思考と学習の認知科学研究を基に1990年代初頭から人間とロボットの相互作用に関する統合的な研究を進め、ヒューマン・ロボットインタラクションと呼ばれるようになった新しい学術領域を確立されました。現在も、思考・学習・相互作用の認知科学・情報学的研究を総合した21世紀社会のための新しい人間科学の構築に意欲を燃やされています。これら卓越した業績により各学会の業績賞、フランス教育功労章コマンドール、紫綬褒章など数多くの賞を受賞しておられます。

先生は、常に高い視野と情熱を持って我々を先導して下さってきました。今回の顕彰を心よりお祝いすると共に、今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

NEWS

## イギリス王立工学アカデミーとの交流対話

常務理事 長井 寿 / KOTOBUNAGAI

英国のInnovation is GREATキャンペーンの一環として、2015年11月末から12月初めにかけて、様々な催しが開催された。英国からの代表団の中に、イギリス王立工学アカデミー(以

下、RAEng)メンバーも含まれており、国際工学アカデミー連合(CAETS)ニューデリー大会等での合意に基づき、EAJはRAEngに対して可能な協力をしつつ、メインイベントとしては、



佐脇紀代志氏



大場光太郎氏



館障会員



ジェフ・ペグマン氏(英国大使館でのセミナーにて)



平賀源内作のエレキテルとからくり掛軸  
(国際ロボット展より)

12月1日に両アカデミー共催で、ワークショップ“Japan’s Perspective of Robotics Industry in Light of the Robotics Revolution Era”をアルカディア市ヶ谷で開催した。

ワークショップでは、日本のロボット政策の現状と今後の展望に焦点を絞り、政策立案、国立研究所、EAJ会員からレポートとそれに対する質疑応答を進めた。

(1) 佐脇 紀代志氏(経済産業省製造産業局産業機械課長): “Toward the Realization of Robot Revolution”

(2) 大場 光太郎氏(産業技術総合研究所ロボットイノベーション研究センター副研究センター長): “Robotics for Innovation”

(3) 館 暉会員(東京大学名誉教授): “Human Augmentation and Telexistence”

実は、レポートに入る前に、冒頭で英国のロボット政策の現状についてRAEng側に急遽、概略説明をしてもらった。このようにして、両国の状況について、共に理解を深めることができた。

EAJメンバーは、前日の11月30日、英国大使館におけるセミナーを聴講して、予め、英国のロボット技術の現状に関する理解を深めることができた。両日での交流や意見交換を通じて、以下のような共通理解に達することができた。

- ・tangibleな連携事業を通じて、両国の利益に貢献することを期する。

- ・そのために、情報交換、意見交換を今後も進める。

- ・その際に、電子的手段を活用する。

- ・また、2016年9月のCAETSロンドン大会が両者の代表者が会合できる良い機会である。

- ・それ以前に、RAEngの招待を受けて、EAJが英国を訪問する機会を設けることを相互に検討する。

今後、状況に応じて、EAJ側の対応体制を強めつつ、着実に両者の交流を積み重ねていくことが期待される。特に、産業界や若手人材の積極的参加が鍵を握るのではないかと感じた。



前列左から長井寿常務理事、デビッド・レーン氏、同4人目から右へガン・ゾン・ヤン氏、佐脇紀代志氏、小泉英明副会長、館暉会員、田中秀雄理事、玖野峰也常務理事、後列左から2人目：サマンサ・フロスト氏、同3人目から右へ大場光太郎氏、ロブ・バッキンガム氏

北海道・東北支部主催の講演会が、平成27年12月10日(木)15時より東北大学青葉山キャンパス内カタールサイエンスキャンパスホールを会場として開催された。参加者は約30名。早瀬敏幸支部理事の司会で、阿部博之副会長による挨拶の後、次の2件の講演があった。

まず、東北大学大学院工学研究科長・滝澤博胤教授による「①未来社会の課題解決に向けて～東北大学工学研究科の研究推進 ②マイクロ波を利用した新しい材料プロセッシング」と題した講演があった。①の講演では、まず2050年における世界をイメージして、悪化してゆく社会的課題を取り上げて大学がすべきことを新しい研究チームによって考える、先端学術融合工学研究機構(CAST)と名付けられた組織の概要と、若手研究者長期派遣制度について紹介があった。②では、滝澤教授が主導する日本学術振興会(JSPS)188委員会(平成26年発足)で取り上げられた「マイクロ波を利用した材料プロセス革新～電磁波エネルギーの産業応用加速化に



早瀬敏幸支部理事



阿部博之副会長

向けて～」に関する新しい材料加工技術(選択的な加熱、内部加熱・体積加熱、急速加熱現象の応用)の紹介があった。

つぎに、東北大学大学院環境科学研究科長・吉岡敏明教授による「①環境科学研究を通じた人材育成の可能性 ②循環型社会構築のための化学プロセス」と題した講演があった。①では、平成16年4月に創立された環境科学研究科は平成27年4月に2専攻体制へと改組され、先端環境創成学専攻では、多様な専門領域で先端研究を行うT型人間、先進社会環境学専攻では、広くて厚い専門基盤に立ちディレクションを示せる凸型人間の育成に最適な教育体制とした。また、中国・韓国・日本の大学間連携による環境リーダー育成プログラム(RESD)や環境フロンティア国際プログラム等の教育プログラムの紹介があった。②では、吉岡教授が行っている廃プラスチックのリサイクルに関する各種取り組みの紹介があった。

講演会終了後、東北大学青葉山キャンパス内青葉記念会館3階「四季彩」に席を改め、安齋浩一支部理事の司会で、滝澤、吉岡両講師を囲んだ意見交換会を実施した。



滝澤博胤会員



吉岡敏明氏

意見交換会挨拶：  
尾坂芳夫支部長

- ◇日時：2016年1月15日(金)  
 ◇会場：福岡県立京都高等学校  
 ◇講師：早瀬修二氏  
 (九州工業大学大学院生命体工学研究科教授)  
 尾家祐二氏  
 (九州工業大学理事・副学長)  
 田中敬二氏  
 (九州大学大学院工学研究院教授)

これからの日本の工学分野をリードする人材を育成してゆくことは、資源の少ない日本が豊かで持続的な発展を続けてゆくうえで極めて重要であり、日本工学アカデミーの重要なミッションの一つでもある。

このたび九州支部では、工学分野で顕著な業績を挙げ活躍しておられる3名の研究者をスーパーグローバルハイスクール(SGH)に採択(平成27年度～)されている福岡県立京都高等学校へ派遣し、「工学・科学技術は如何に私たちの生活を豊かにしているか」という主題で講演会を開催した。工学、科学技術がいかに豊かで安全・安心な生活を支えているかについて、高校生に理解してもらうとともに工学に興味を持ってもらうこと、将来社会をリードできるグローバル人材を増やしてゆくことを目的とするものである。

講演会に先立ち、梶山千里副会長による趣旨説明と國武豊喜九州支部長による開会の挨拶があった。続いて丸内毅校長からご挨拶いただいた。引き続き講演会は山田淳理事が進行を務めた。今回は3名の方に講演をお願いした。

トップバッターとして、早瀬修二氏が「太陽光発電が作る未来社会」というタイトルで講演された。究極のエネルギー源である太陽光エネルギーが、腕時計から人工衛星にまたがる極めて広範な方面で使用されていることについて紹介された。さらに、太陽光発電の普及はこれからの省エネルギー政策の推進にいかん重要であるか、そのためにはどのようにしてコストを下げればよいかなどについて、現実的な課題としてわかりやすく説明された。

次に、尾家祐二氏が「情報工学の技術が切り拓く未来」というタイトルで講演された。グローバル化を「情報」技術が牽引するという観点から、過去のコミュニケーション技術が緩やかな拡散であったのに比べ、2000年代後半に急激に発展したことについて、電子メールの発展を例にとり、わかりやすく紹介された。さらに、マイナンバー制度やオリンピックに向けた情報技術の活用と普及により、情報技術がますます豊かな社会へと発展することについて、明快に話された。

最後に、田中敬二氏が「ナノマテリアル開発と社会への貢献」というタイトルで講演された。「ナノとは？」から始まり、車のタイヤや人工透析膜を例にとり、高分子材料がいかに私たちの生活になじみ深いものであるかを紹介された。さらに、ナノスケールでの材料設計と機能評価が製品の機能向上や技術革新に極めて重要であり、日常生活や病気に負けない豊かな生活を送ってゆくためにどれほど大切なことであるかを熱く語りかけられた。



國武豊喜支部長



梶山千里副会長



丸内毅氏



山田淳理事・支部理事



早瀬修二氏

講演会は、福岡県立京都高等学校の体育館で開催され、1、2年生の約560名が参加した。また父兄の参加も見受けられた。時間の都合上、質問を受ける時間が殆ど取れなかったのが残念であるが、高校生は非常に熱心に聴講し、休憩時間には講師を囲んで懇談するというほほえまし

い光景も見られた。聴講した多くの学生が「工学・科学技術」の大切さを理解し、興味を抱いたと感じている。今後このような啓蒙活動が全国的に広がり、より多くの高校生が工学に興味を持ち、大学等の工学分野に進むことを期待している。



尾家祐二氏



田中敬二氏



## 中原恒雄名誉会長・第6代会長を偲んで

常務理事(元住友電工研究開発本部主任研究員) 玖野 峰也 / MINEYA KUNO



2015年賀詞交歓会にて

中原恒雄名誉会長が2016年1月8日に逝去されました。生前のご厚情に感謝申し上げますとともに謹んでお悔やみ申し上げます。

中原恒雄会員は1953年3月に東京大学工学部電気工学科を卒業され、直ちに住友電気工業(株)に入社されて研究部電気課、システム開発部長、通信事業部次長を経て、1976年に研究開発本部長に就任されました。その後1978年に取締役、1981年に常務取締役、1982年に専務取締役、1985年に副社長、1991年には副会長に就任し、住友電工の研究開発部門を一貫して統括されました。

1981年から1985年まで第12期学術会議会員としてその後も1987年のEAJ設立に関わり、1989年からEAJ理事、1991年から副会長、2006年から2010年まで第6代のEAJ会長を務められました。この間2007年国際工学アカデミー連合(CAETS)大会を東京で成功裏に開催し、流石に日本開催はお手本の様な運営であったと礼賛されました。

中原会員からは、若い頃の体験で「雪の北海道で貨車の個体番号識別装置が、貨車に積もった雪で読み取り不能になった苦勞」を語っていただきました。住友電工の外でも、IEEE Japan Councilや技術同友会、科学技術と経済の会、さらには日本学術振興会など多方面で活躍されました。特に全米工学アカデミー (NAE)のドレイパー賞の選考委員として日本の技術が世界に認知されるよう努めておられました。また1994年に藍綬褒章、2004年には大英勲章(CBE)を受けられるなど、数多くの叙勲と授賞を受けておられます。なおご遺族の強いご意志で、偲ぶ会などの行事は一切行われません。関係の皆様にはこの場をお借りして、故人へのご厚情に改めて感謝申し上げます。

常務理事 玖野 峰也 / MINEYA KUNO

2月15日から1週間に亘って、スウェーデン国王Carl XVI Gustaf陛下を団長とするThe Royal Technology Mission 2016が訪日され、産業界・学界・研究機関などを訪問されました。2月18日には日瑞の関係者が集いIVA主催の夕食会が催され、EAJから西澤潤一最高顧問、中西友子・小泉英明両副会長、池田駿介専務理事他が出席しました。席上、昨年11月にIVA客員会員に選ばれた中西友子副会長に、国王陛下から直々にIVAの会員証書が手渡されました。



スウェーデン国王と中西友子副会長  
左はニルソン IVA 会長

常務理事 玖野 峰也 / MINEYA KUNO



小宮山宏会長

1月19日にホテルJALシティ田町においてEAJの2016年賀詞交歓会が開催されました。その数日前に中原恒雄名誉会長が逝去され、お馴染みのやや長いス

ピーチ付きの乾杯の音頭を聞かれませんでした。小宮山宏会長から元氣な新年のご挨拶をいただき、故人を偲びつつ新年の抱負を語り合いました。また賀詞交歓会の直後には2015年10月に派遣された日豪若手研究者交流促進事業(ERLEP)訪豪メンバー9名の報告会が行われました。

小宮山会長の年頭のご挨拶は、以下のURLからご覧いただけます。  
<http://www.eaj.or.jp/eajnews/news164/01.html>

## 新入正会員のご紹介

(2015年11月入会者)

### 【第1分野】

かみじょう けんじろう  
上條 謙二郎



#### 東北大学名誉教授

低温推進剤ロケットに用いるターボポンプの性能と信頼性を高める研究を行い、わが国の宇宙ロケットの実用化に貢献した。またポンプに生じる旋回キャビテーション現象を発見して、共同研究により解析理論を構築した。

### 【第2分野】

あおき たかふみ  
青木 孝文



#### 東北大学副学長・大学院情報科学研究科教授

1965年宮城県生まれ。1992年東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程修了。同年東北大学助手、1996年助教授、2002年教授。2006年総長特任補佐、2012年副学長を併任。大学ICT(情報通信技術)推進協議会副会長。市村学術賞貢献賞、河北文化賞などを受賞。専門は計算機工学、画像工学。

あんどう まこと  
安藤 真



### 東京工業大学理事・副学長(研究担当)

1952年北海道出身。1979年東京工業大学大学院博士課程修了。日本電信電話公社、1982年同大助手、2015年より現職。IEEE (米国電気電子学会)アンテナ伝播ソサイエティ会長、URSI (国際電波科学連合)副会長、専門は電磁波、アンテナ伝播、無線通信。

かなや いちろう  
金谷 一郎



### 長崎県立大学教授

1973年東京都生まれ。1999年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士課程修了。科学技術振興機構さきがけ研究員、大阪大学准教授等を経て、2015年長崎県立大学教授。2009～2012年日米先端工学(JAFOE)シンポジウム運営委員長。専門は芸術、デザイン、文化的造形物の数理解の理解。

さかむら けん  
坂村 健



### 東京大学大学院情報学環教授

1951年東京生まれ。1979年慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。1984年からTRON (The Real-time Operating system Nucleus)プロジェクトを開始。リアルタイム性に優れたソフトウェアをオープンでフリーに公開。また、コンピュータをあらゆるモノに埋め込み、ネットワークで結ぶIoT (Internet of Things)の概念を世界に先駆けて提唱し、研究を推進。

ちば いさむ  
千葉 勇



### (株)三菱総合研究所常務執行役員

この度、新会員になりました千葉勇と申します。昭和55年から平成25年まで三菱電機(株)で無線関連のシステムや機器の研究開発を行っていました。現在は(株)三菱総合研究所で経済や社会の動向も視野に入れたシンクタンクとしての活動を行っています。

なかしま よしかず  
中島 義和



### 東京大学大学院工学系研究科准教授

1969年福井県生まれ。1997年大阪大学大学院博士課程修了。博士(工学)。同年三菱電機(株)、2000年大阪大学、2005年東京大学インテリジェント・モデリング・ラボラトリー、2006年より現職。専門は計算機科学、画像工学、医用工学。

### [第3分野]

かわい まき  
川合 真紀



### 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

1952年東京都生まれ。1980年理学博士(東京大学)。1985年理化学研究所研究員、1988年東京工業大学工業材料研究所客員教授(TDK寄附研究部門)、1991年理化学研究所主任研究員を経て2004年より現職。2010～2015年は理化学研究所理事。専門は表面科学、物理化学。

つちや こういち  
土谷 浩一



**国立研究開発法人物質・材料研究機構元素戦略材料センターセンター長**  
1960年北海道生まれ。1991年ノースウエスタン大学材料科学工学専攻博士課程修了(Ph.D.)。1991年北海道大学助手。1997年豊橋技術科学大学講師、助教授、准教授を経て、2007年より物質・材料研究機構。専門は金属材料工学。

みしま よしなお  
三島 良直



**東京工業大学学長**  
1949年東京生まれ。1979年カリフォルニア大学バークレー校博士課程修了。1997年東京工業大学教授、2011年理事・副学長を経て2012年より現職。専門は材料工学。2006～2007年国際熱処理・表面処理連盟(IFHTSE)会長、2010～2011年日本金属学会会長を務める。

みたらい ようこ  
御手洗 容子



**国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点副拠点長**  
1966年東京生まれ。1994年東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。1995年金属材料技術研究所入所、2006年物質・材料研究機構グループリーダー、2014年同構造材料研究拠点副拠点長。専門は高温構造材料。

むらかみ まさと  
村上 雅人



**芝浦工業大学学長**  
1955年岩手県生まれ。1984年東京大学工学系大学院博士課程修了。工学博士。新日本製鐵(株)入社。1994年に超電導工学研究所第三研究部長。2003年に芝浦工業大学工学部教授。2008年より副学長、2012年より学長、現在に至る。専門は超電導工学。

やまだ わねよし  
山田 宗慶



**東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部学長**  
1946年北海道生まれ。1975年東北大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。1976年工学博士。東北大学教授、評議員、環境保全センター長。2009年秋田工業高等専門学校長。2015年東北生活文化大学学長。科学技術分野の文部科学大臣表彰。専門は応用化学。

**[第4分野]**

いずみ ひろと  
和泉 洋人



**内閣官房内閣総理大臣補佐官**  
1953年神奈川県生まれ。1976年東京大学工学部都市工学科卒業。同年建設省入省、2007年7月国土交通省住宅局長、2009年7月内閣官房地域活性化統合事務局長、2012年9月内閣官房参与(国家戦略担当)、2013年1月内閣総理大臣補佐官、2001年4月工学博士取得(東京大学)、慶應義塾大学、政策研究大学院大学、東京大学の客員教授等兼任、都市住宅学会賞、不動産学会賞。専門は住宅・建築・都市政策。

【第5分野】

うえさか みつる  
上坂 充



東京大学大学院工学系研究科教授

私は、先進小型加速器・レーザーの開発と医療・産業／社会のインフラ診断・原子力応用の研究を行っております。また、国際原子力機関(IAEA)、日本原子力人材育成ネットワークと連携して、国際原子力人材育成を推進しております。微力ながらアカデミーに貢献したく存じます。

終身会員

(2015年11月27日～2016年2月23日になられた方)

加藤 正名

村上 雅也

林 秀樹

\*終身会員のお申し込みは随時受け付けております。

## INFORMATION

寄付者ご芳名

(今年度ご寄付いただいた方)

小宮山 宏 30口

玖野 峰也 3口

\*公益社団法人日本工学アカデミーの財政強化のために、寄付についてぜひご協力をお願いいたします。  
なお公益社団法人への寄付行為が認められた寄付者は、税制面での優遇措置に加えて、税制控除が受けられます。

小野 敏郎会員

2015年6月29日逝去 78歳

大阪府立大学名誉教授

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1966年9月 京都大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士

1967年4月 京都大学講師(工学部数理工学科)

1968年7月 大阪府立大学助教授(工学部機械工学科)

1982年12月 同 教授

2000年3月 同 定年退職(名誉教授)

2000年4月 岡山理科大学教授(工学部機械工学科)

2001年3月 EAJ入会

湯原 哲夫会員

2015年11月18日逝去 71歳

元三菱重工業(株)横浜研究所長

元東京大学教授

元(一財)キャノングローバル戦略研究所理事

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1970年3月 東京大学大学院数物系研究科船舶工学専攻修士課程修了

1970年4月 三菱重工業(株)技術本部入社

1997年4月 同 横浜研究所所長

2002年6月 東京大学大学院教授

2009年から (一財)キャノングローバル戦略研究所理事・研究主幹

2013年8月 EAJ会員

藤本 盛久会員  
2016年1月8日逝去 92歳  
東京工業大学名誉教授  
神奈川大学名誉教授

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1946年9月 東京工業大学建築学科卒業  
1946年9月 都立工業専門学校助教授(1948年教授)  
1949年3月 東京工業大学助手(1953年助教授)  
1959年8月 同 工学博士  
1962年7月 同 教授(1982年工学部長)  
1984年4月 同 定年退官(名誉教授)、神奈川大学工学部教授  
1987年4月 EAJ設立発起人

富野 直樹会員  
2016年1月31日逝去 65歳  
元(株)ニコン常務取締役、顧問

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1975年3月 大阪大学大学院工学研究科精密工学修士課程修了  
1975年4月 日本光学工業(株)入社  
2000年8月 (株)ニコン 映像カンパニー開発統括部長  
2001年6月 同 執行役員  
2002年10月 同 映像カンパニー副プレジデント  
2003年6月 同 取締役(2004年常務取締役)  
2009年6月 同 顧問エグゼクティブフェロー  
コアテクノロジーセンター富野研究室長  
2012年5月 EAJ入会

## 公益社団法人日本工学アカデミー 第4回〈通算20回〉定時社員総会開催のご案内

公益社団法人日本工学アカデミー

会員各位

2016年5月31日(火)14時30分より、ホテルJALシティ田町(東京都港区芝浦3-16-18)において、下記議題により本会の第4回〈通算20回〉定時社員総会を開催いたします。

尚、正式通知は別便にてお届けいたします。

議 題(案)

- 1)2015年度事業報告及び収支決算の承認
- 2)2016年度事業計画及び収支予算の報告
- 3)役員を選任

総会后、例年通り各委員会・プロジェクト報告、特別講演ならびに懇親会を計画しております。

### 事務局からのお願い

ご所属・お肩書き、ご住所、ご連絡先等に変更がございましたら、お手数ですが事務局までお知らせいただければ幸いです。「会員データ変更届」の用紙を今号に同封いたしますので、どうぞご利用ください。

なおこの用紙は、ホームページの「会員向けページ」にフォーマットがございました。こちらからご利用いただけます。[http://www.eaj.or.jp/glance/eaj\\_kaiin\\_data\\_henkoutodoke.rtf](http://www.eaj.or.jp/glance/eaj_kaiin_data_henkoutodoke.rtf)

### 編集後記

日本工学アカデミーは1987年4月16日に任意団体として設立されましたので、来年は30周年を迎えます。設立から10年を経た1998年1月5日に社団法人に認可され、2013年7月1日には公益社団法人に移行しました。この間、定款や会員選考規則及び委員会規則などは基本的に29年前の設立時と変わっていません。諸先輩が理想の組織運営を当初から設計し体现されたと何度も痛感しました。現在公益法人化に合わせて一つの大きな組織変更を進めています。会員選考委員会、企画・運営委員会、政策委員会、国際委員会、広報委員会の内、後者4委員会を全て企画・運営委員会に統合しました。EAJの活動には国内と海外の区別はなく、シームレスに運営するためです。このニュースでも独、英、瑞、豪および愛知、宮城、福岡、そして会員の叙勲や顕彰の記事が並びます。(常務理事 玖野峰也)